

1 月ホームルーム

『模試の活用法 & 直前期の勉強方法

・発展講義の取り方』

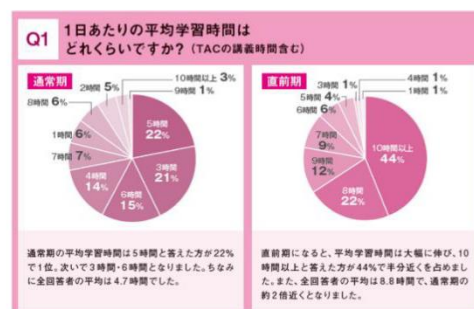
1. 直前期とは

みなさんは講義などで講師が「直前期」について言及する場面を見聞きしたことがあると思いますが、その時期や内容については、あまり具体的なイメージを持っていないという方も多いのではないのでしょうか。実際に、直前期には何が起きているのか確認してみましょう。

右の図は、2021 年公務員試験合格者に対して行ったアンケートの一部（詳細はオリエンテーションブック p51 参照）です。1 日あたりの平均学習時間を比較してみると、8 時間以上学習した合格者の割合は、通常期では全体の 10% 程度ですが、直前期になると 78% に大きく変化していることがわかります。つまり直前期は、多くの方にとって**学習量が大幅に増える時期**だということがわかります。例えるなら、マラソン競技のラストスパートをかける時期という感じですね。

では、学習量が増える直前期はいつ頃から始まるのでしょうか？

様々な意見がありますが、1 次試験日の 2～3 ヶ月程度前の時期を直前期だと認識する方が多いようです。これは模擬試験が実施される時期とも重なっていますので、説得力があると思います。しかし、だからといって「直前期は 2 月末から」などと、その時期を一律に決めることはできません。というのも、個々人の学習進捗状況を加味する必要があるからです。マラソンと同じで、ラストスパートをかけるタイミングは、一人ひとりが自分の状況に応じて判断しなければなりません。直前期は時期だけではなく、状態を指す言葉でもあるのです。基礎をある程度押さえていて、総合的な調整に入ることができる状態や時期だと捉えるべきでしょう。



2. 直前期の学習

直前期には学習量が大幅に増える傾向があることを確認しましたが、前述のとおり、本質的には総合的な調整をはかる時期であるため、勉強する量よりも**バランス**に着目すべきです。皆さん（社会人など）の中にはこれ以上勉強量を増やすことが難しい方も少なからずいらっしゃると思いますので、実際にはどのような時間を確保しているのか、どんなことに時間を使っているのか、ちょっと覗いてみましょう。

下の表は、実際の合格者が直前期の1日をどのように使っていたのかを大まかにまとめたものです。

例①：（4月頃）

6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	25時
	起床 朝食	移動	教養の過去問			昼食		専門の過去問			帰宅	夕食 風呂	自由時間		論文作成	暗記	就寝		

➡この方は、講義などのインプットはほぼ終わっている状態です。択一試験の問題演習（8時間）に大半の時間を割いていますが、論文や暗記物にも3時間ほど使い、1日で合計11時間の学習時間を設けていることがわかります。

例②：（5月頃）

6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	25時
起床	通勤	会社近くのコンビニ朝食と勉強（教養の過去問の問題演習）	移動		仕事		勉強（文章理解） 昼食30分		仕事			帰宅	入浴	夕食		勉強		就寝	

➡こちらは社会人の方。仕事前や休憩時間なども活用してなんとか1日5時間を確保していることがわかります。

例③：（6月頃）

6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	24時	25時
	起床・朝食	移動時間	文章理解	教養の過去問	一般知識分野 ※前夜に休憩	商法	憲法	昼食	財政学	会計学	休憩	行政法		ミクロ経済学		移動時間	夕食・自由時間		就寝

➡こちらは国税専門官志望の方。直前期というよりは本番直前（1次試験の数日前）です。約11時間でなるべく多くの科目に手を付けようとしている様子がうかがえます。

合格者それぞれに違いはありますが、いくつか共通したポイントもあると思います。例年多くの受験生が行っている直前期の対策も含めて整理していきましょう。

【アウトプット（問題演習）中心の学習スタイル】

➡直前期の基本は、一度取り込んだ知識を保守点検（メンテナンス）することです。これは、第2回の試験対策ゼミでも確認したことでした。ただ、直前期はメンテナンス対象の科目が多くなるため、かかる時間が必然的に増大することになります。この**アウトプットをうまく管理できないと、大きな時間のロスにつながってしまいます**。学習が進行途中の場合はインプットのためにじっくり時間をかけるものですが、それ以外の場合は1つの科目に長時間かけると集中力の維持が難しく、かえって効率が悪くなることもあるかもしれません。そこで、多くの受験生は3月頃から本番も見据えて**時間を計りながら問題を解く**ことを意識し始めます。科目の特性にもよりますが、例えば30分で7～8問を解くなど、時間と問題数を決めて問題演習をしています。



2023 年合格目標

このような取り組み方は、より多くの科目を 1 日で回すためにも必要な工夫です。さらに、時間の管理だけでなく、学習効率の面でも効果的です。科目間のサイクルを短くし、目先の視点を変えることで、集中力を長時間維持できるようになります。また、前述の合格者が行っている問題演習は、時間を決めるだけでなく、**時間帯を考えて行われていることも注目に値します**。本試験では多くの場合、午前中に教養試験、午後に専門試験が行われますので、それを見据えて、**午前中に教養科目、午後に専門科目**という構成で問題演習をしているのです。仕事などがある方はなかなか難しいことですが、本試験で力を発揮するためにも、直前期の早い段階で**生活リズムを本試験に合わせていくことが大切だ**といえそうです。

例) 問題演習中心の学習

時間帯	月	火	水	木	金	土	日
午前 i	数処	数処	文章	数処	文章	数処	文章
午前 ii	自然	人文	自然	人文	時事	人文	自然
午後 i	法律	経済	法律	経済	法律	経済	法律
午後 ii	経済	行政	行政	行政	経済	法律	
午後 iii	講義	論文	講義	記述	講義	論文	

直前期オプション講座 数的処理 過去問特訓

特別区 I 類・東京都 I 類 B・裁判所一般職・国家専門職・国家一般職等の受験を予定している方を対象とし、数的処理の問題を効率的な時間配分で解けるようになりたい方におすすめの講座です。演習では、本試験での時間配分を意識しながら過去問演習に取り組みます。演習のあとは、ポイント解説講義で確認し知識の定着を図ります。
※教室は定員制です (Web 通信もあります)。

2023年合格目標
TAC公務員講座
直前期オプション講座

数的処理 過去問特訓

特別区 I 類 / 東京都 I 類 B / 裁判所一般職 (大卒) / 国家専門職 / 国家一般職 (大卒) / 外務専門職 / 国家総合職

このコースの
ココがPOINT

◆ 数的処理を効率的な時間配分で解けるようになりたい方におすすめ！
◆ 過去問を使って、本試験形式で演習する解説講義付き！
◆ 教材は、「数的処理」過去 15 年分 (令和 4 年～平成 20 年) 完備！

【択一試験以外 (論文・専門記述など) の対策】

➡直前期に入るまでは主要科目 (択一試験) のインプットが中心でしたが、それが一段落してくるとそれ以外の試験対策も本格化してきます。特に公開模試の受験を契機に、**論文や専門記述などに力を入れ始める方が増えてきます**。それぞれに対策講義がありますので、ゆとりがあるうちに受講し、その対策に関するイメージをある程度持っておくとよいでしょう。直前期であってもまだ人によっては残っている講義 (選択講義・発展講義・一般知識講義) や、新規で始まる (時事対策など) 講義等、まだまだインプットに時間を使う必要があるため無理は禁物ですが、徐々にでも論述試験の対策にも目を向けられるようにしていきます。



直前期オプション講座 論文特訓

特別区 I 類、東京都 I 類 B (I 類 A も OK) で出題される教養論文を「書き方重視」「本試験形式」で特訓します。令和 5 年度本試験の「出題予想テーマ」にチャレンジして合格答案作成力をブラッシュアップしましょう。
※添削つきは定員制です (添削なしもあります)。

TAC公務員講座
2023年合格目標

論文特訓 特別区都

特別区 I 類 / 東京都 I 類 B (I 類 A も OK) で出題される教養論文を「書き方重視」「本試験形式」で特訓！
令和 5 年度本試験の「出題予想テーマ」にチャレンジして合格答案作成力をブラッシュアップしましょう！

□論文特訓とは・・・

◆ 本試験に類似した答案用紙での論文のトレーニングを機材いたにおすすり！
◆ 各試験種の出題予想テーマに沿った出題で模範解答をフィードバック講義つき！

【目標の管理】

➡直前期はやるべきことが山積してパニック状態になる方も多くなる時期です。そういう時こそ大切になるのが**全体を俯瞰して学習を管理**できることだと思います。「合格はトータルバランスで考える」…これは、第2回の試験対策ゼミで書かせていただいたことです。また、学習計画の基本（未受講の方はぜひ確認してください）についても触れましたが、定期的に自身の**現状と目標のギャップを把握**できることがより重要な意味を持つ時期になります。直前期は一言でいえば、理想と現実の間に立つことです。それは時として辛い思いをすることでもあります。しかし、多くの方がこの苦しい体験を乗り越えて合格にたどり着いています。では、具体的にどうしたらよいのでしょうか？

皆さんもご存じだと思いますが、一般的に目標を達成するための管理手法として、「PDCA サイクル：計画（Plan）、実行（Do）、確認（Check）、改善（Action）」があります。他にも「OODA ループ：観察（Observe）、状況判断（Orient）、意思決定（Decide）、行動/改善（Action）」や、「STPD サイクル：見る（See）、考える（Think）、計画（Plan）、実行（Do）」など似たようなものがたくさんあります。自分が管理しやすければどのような方法をとっても構わないですが、大切なのは**現状を把握**できることと、目標を達成するための**行動を決定**できることだと思います。しかも、**1～2 週間の比較的短いスパン**でそのサイクルを回せることが望ましいです。

このように考えると、直前期の**学習管理**には**模擬試験を活用**することが有効であるといえます。TAC では、2 月末～4 月中旬にかけて**最大で 5 回**（本科生の種類によって異なります）の**公開模試**があります。1 次試験が学習のゴール地点だとすると、模擬試験はその間にあるチェックポイントや給水地点のようなものです。合格のためのツールとして積極的に活用していきましょう。

例) 目標の管理（択一試験）

- ① 模試を受験する前に科目分野ごとの出題数を確認し、目標（予想）点を設定する。
⇒模試までの期間に目標をクリアするためにできることを考え、実行する。
- ② 模試を受験した直後に採点し、目標点との差異を確認する。
⇒その差異を埋めるための方策を新たに決定し、必要があれば目標の修正を図る。
⇒これが次の模試の目標となる。

第〇〇回公開模試		分野（科目）	出題数	※目標点	※得点	※平均点	修正目標
教養 （ 分）	知能	文章理解					
		数的処理					
	知識	社会科学					
		人文科学					
		自然科学					
		…					
計							
専門 （ 分）	法律	憲法					
		民法					
		行政法					
	経済	ミクロ経済学					
		マクロ経済学					
		財政学					
	政治	政治学					
		…					
		…					

※目標点や得点・平均点は割合（％）で表記すれば、異なる試験種の模試間でも比較しやすくなります。

➡択一試験に限りますが、**合格は正答数で決まります**。突き詰めれば、**得点の管理**だと思います。できないことや無理なこともあると思いますが、必ずできることも見つかるはずです。迷った際には担任講師などに相談して、直前期を乗り越えていきましょう。

3. 模擬試験の活用

➡前述の通り、直前期は模試をペースメーカーにして学習をコントロールすることができます。模試の度に自分の現状を把握し、目標達成のためのより現実的で具体的な手段を決定することを繰り返していくことが、合格への最短ルートになります。しかし、学習の進捗状況を理由に模試を回避する方も一定数いらっしゃいます。このような方は『まだ準備ができていないから』受験できないと考えているようですが、そのような方は模擬試験を受ける目的や意義を見直すべきです。模試はよい成績をとって安心するために受けるものではなく、本試験でよい成績をとるために活用するものです。スポーツなどで行われる練習試合やテストマッチを思い浮かべればイメージがつくと思いますが、実戦形式の訓練を通して初めて見えてくる課題や方針があるものです。模擬試験は準備ができていない方でも受けてみる価値はあると思います。以下、模試を受けるメリットについて確認していきましょう。

【総合的な調整】

➡模試では他の受験者との比較を通して、自身の現状や課題をトータルで確認できます。基本演習などでも正答率を比較し、理解度を確認していると思いますが、模擬試験では択一試験・論述試験を含めた総合的な視点で自分の立ち位置を把握できます。自分の弱点や強みについて、ライバルを含めた関係で確認することによって、より現実的で効率的な改善策へとフィードバックすることができるはずです。模擬試験では総合判定だけでなく、※試験種目ごとに判定がつきます。また、択一試験では分野別・問題別の平均点や正答率も確認できますので、自身と他者とのギャップを詳細に分析し、合格のためになすべきことの優先順位を決定できます。極端ですが、まだ学習を開始していない方であっても、模試を受けるメリットは見いだせるかもしれません。ただし、模試の成績返却（Web 成績表公開日）までは1カ月程度を要しますので、模試の分析は以下の2段階で確認することを推奨します。

※教養・専門・論文（記述）ごとにA～Eの5段階で判定が出ます。例えば、教養のみの市役所受験を考えている方は、第1～5回公開模試の教養試験だけを受験することも可能です。

【模擬試験の分析】

（第1段階）成績表公開まで

- ・当日中に自己採点：分野別の目標と得点を比較する（前頁の表を参照）。
 - ⇒可能であれば、本試験ボーダーラインと比較（試験対策ゼミ③～⑤参照）、必要なら目標の修正をはかる。
 - ※当然だが、模試でマークシート用紙は回収されるので、問題冊子にマークした番号の記録を残しておく。
- ・得点の精度を確認：受験時の感触（自信のあった/なかった問題の正答率）を確認。
 - ⇒より自信があって取りこぼした問題は、比較的短時間で修正でき、得点の精度を上げられる。
 - ※自信（理解度）の程度を3段階程度（大中小、ABCなど）に分類して、問題冊子に記録として残しておく。
- ・時間配分の再確認：解いた問題と時間との関係を分析する。
 - ⇒ハマった問題など、時間の使い方にも必ず改善点はある。次の模試ではどんな工夫が必要かを考える。

第3回公開模試 個人成績表

科目: 総合 A, 教養 A, 専門 A, 小論文 A

受験番号: []

模試結果

科目	試験時間	受験者数	合格者数	合格者率	平均点	最高点	最低点	標準偏差	自己点	自己率
総合	120分	1,200	120	10%	60.0	80.0	40.0	15.0	65.0	54.2%
教養	90分	800	80	10%	45.0	60.0	20.0	10.0	50.0	55.6%
専門	90分	400	40	10%	55.0	70.0	30.0	12.0	60.0	58.8%
小論文	30分	200	20	10%	35.0	50.0	10.0	5.0	40.0	58.8%

※詳細な科目別・分野別・問題別データも提供されています。

（第2段階）成績表公開日以降

- ・平均点の確認：分野別の平均点と得点を比較する（前々頁の表を参照）。
⇒平均点と大きくかけ離れている分野については、原因の特定及び目標の修正が必要どうかを判断する。
- ・問題別の正答率を確認：40%以上の正答率を優先的に見直す。
⇒正答率別（①60%以上、②40%以上 60%未満、③40%未満）に優先順位を設け、①と②を中心に復習。

【経験値を高める】

➡実際の本試験では、朝から夕方まで緊張を強いられ、**体力も集中力も必要**になります。また、試験では**限られた時間内で得点**することが求められます。たとえ学習がうまく進んでいたとしても、本試験の形式に慣れていない状況では本来の力は発揮できません。模擬試験は、勉強以外の経験値を上げることに役立ちます。例えば、本試験の失敗でよく耳にするのは、食事の量に関するものです。食べる量が少ないと午後の試験で集中力が切れ、逆に食べ過ぎると睡魔と闘う羽目になります。また、試験を受ける服装なども集中力に大きく影響することがわかってきます。さらに、模試での試行錯誤を通して、自分に適した**時間配分を構築**することができるようになります。これらは問題集をひたすら解いているだけでは身につけられない経験値なのです。

以下は教養試験の時間配分に関する私見ですが、これについては講師によって意見が分かれることもあると思います。つまり、正解はもともとありませんので、参考のひとつとして確認してください。

【教養択一試験の時間配分】

「時間が足りなかった！」…これは模試などでほとんどの受験生が経験することです。例えば『数的処理で時間をかけすぎてしまい、得点源にしている文章理解に手を付けられなかった…』など、教養試験では時間配分をミスしてしまった方からの相談が数多く寄せられます（専門試験では時間配分のミスはあまり起こらない）。

特に多いのは、**問題を解く理想的な順番**についての質問・相談です。教養試験は時間切れになりやすいので、以下でそのことについて考えてみましょう。

教養試験は5分野（数処・文章・人文・自然・社会）ありますが、ここでは3つのパート「①数的処理」「②文章理解」「③一般知識」に大別します。

例えば、本試験で①⇒②⇒③の順で問題を解いて、③の途中で時間切れになったとします。一般に知能問題よりも知識問題の方が短時間で解けるため、③⇒②⇒①（又は③⇒①⇒②）の順で目を通していたら、より多くの問題が解けたかもしれないのです。つまり、解く問題数を優先すれば、短時間で済む問題をなるべく先に解くことが重要だということになります。

しかし一方で、短時間で解けても苦手であれば正解する可能性は低いので、正答数を優先するのであれば、多少時間が多くかかっても、苦手な科目よりは得意な科目をなるべく先に解く方がよいと考えることもできます。

これらを総合すれば、なるべく「短時間かつ得意」な問題を優先し「長時間かつ苦手」な問題を後回しにすればよいことになります。現実的に可能かどうかは別としても、この方法で本当にうまくいくのでしょうか？

（補足）問題を解く順番については上記以外に、科目の特性と自身との相性なども影響する可能性があります。

例：数的処理 ⇒A：「朝イチだと頭が回らないから、ある程度エンジンかかった試験の後半で取り組みたい」

⇒B：「試験の最後の方だと、頭が疲れてしまうから初めの方に取り組みたい」

人によって違うので、模試で試行錯誤して自分のスタイルを作り上げましょう。

結論をいうと、解く順番だけを変えても、**それぞれのパートごとに時間を管理**していなければ、あまりうまくいかないと思います。順番は多少影響しますが、時間配分の失敗は、やはり**時間の管理方法**に主な原因があるはずです。

では、どうすればよいのでしょうか？

例えば、120 分の試験時間で、①数処（60 分）⇒②文章（40 分）⇒③知識（20 分）と順番だけでなく時間も設定します。本来はマークするための時間など予備時間を 5 分前後設けますが今回は省略します。あとは**解く順番に関係なく、そのパートごとに設定した時間を超えない範囲で問題を解き、時間が来たら他のパートに移ることを徹底すればよい**のです。単純ですが、これで時間のコントロールはできるようになります。

ただし、根拠のない時間設定では意味がありません。ここで重要なのは、かけた時間に対する効果（得点）も管理できるかどうかです。

もともと、教養は時間切れになる確率が高い試験です。それを防ぐ努力も大切ですが、そのために得点を犠牲にするわけにはいきません。すべての問題を解き終わることよりも、合格のために必要な得点を稼ぐことの方が優先されるべきだと思います。つまり、分野別の**出題数に応じた時間配分ではなく、見込む得点に応じた時間配分**を設定できるかが重要なのではないのでしょうか。

特別区の数的処理分野を例に時間配分を考えてみましょう。特別区の教養試験は 120 分で 40 問解答ですから、平均すると 1 問あたり 3 分となります。そのうち数的処理は 19 問なので、単純計算すると $19 \times 3 \text{ 分} = 57 \text{ 分}$ となります。しかし、数的処理が得意でないかぎり 1 問あたり 3 分では厳しいと感じる方も多いと思います。かといって、1 問 5 分だと 19 問で 95 分も取られてしまいますので現実的とはいえないでしょう。そのため、**見込む得点をもとに解く問題数を決め、解く問題数に応じて時間を配分すべき**です。数的処理は得意であればあるほど 1 問あたりにかかる時間は少なく済み、見込める得点が高くなります。苦手であればその逆になるでしょう。以下の表で特徴の異なる架空の人物（3 人）が教養で 20 問の正解を目指すパターンを見てみましょう。

例）特別区（数処 19 題）

数的処理		目標（見込み）	解く問題数	1 問あたりに使う時間	かける時間（最大）
A さん	得意	15 点	15～19 問	3.5～4.5 分	70 分
B くん	普通	10 点	10～15 問	4～6 分	60 分
C さん	苦手	7 点	7～8 問	6～7 分	50 分

A さん：数的処理で可能な限り得点を稼ぎ、他の分野ではあまり時間をかけずに 5 点前後を狙う作戦

B くん：数的処理では平均点狙い。他の分野でもバランスよく 10 点前後を狙う作戦

C さん：数的処理はしっかり時間をかけて必要最小限を確保し、13 点を他の分野で稼ぐ作戦

上記のように分野別に目標があり、それに合わせて時間を配分している場合、ある分野で**配分した時間を延長してまで問題を解くことに意味はない**ことがわかります。例えば、その分野を 5 分延長して、正解数が 1 問増えたとしても、他の分野で時間が短縮され、そこでの正答数を減らすことにつながるからです。

時間の制約がある中では、解く問題の数を増やしたところで、得点が増えるとは限りません。人によっては解く問題数を少し減らした方が、精度が上がって得点の増加につながることもさきあります。問題数と時間の最適なバランスは、個々人が実戦的な訓練を通して身に付けなければなりません。**教養試験における時間の管理は、得点の管理に直結**します。実力を最大限発揮できる配分を模索していきましょう。

【重要論点の整理】

➡模擬試験で出題される問題は、その試験種の出題傾向を踏まえた予想問題です。すべてとはいえませんが、毎年多くの問題が実際に的中しています。下の表は2022年の本試験のうち、問題の持ち帰りが可能な試験において的中が確認できた問題の一部を抜粋したものです。地方上級試験など問題を持ち帰れない試験でも、「同じような問題がでた」という受験生からの声も多く寄せられています。また、的中とまではいえませんが、科目（時事など）によっては予想していた試験種とは異なる試験種で出題されることも多々あります。このように、模擬試験は出題の可能性が高い重要論点を網羅しているので受験する価値はかなり大きいと思います。受験可能な模試はなるべく受験し、しっかりと復習することをお勧めします。



2022年 公開模試予想的中問題（一部抜粋）

公開模試	試験
第1回公開模試(特別区I類) 専門択一試験(民法 No.13)	⇒
民法に規定する共有に関する記述として、判例、通説に照らし、妥当なのはどれか。	⇒
第1回公開模試(特別区I類) 専門択一試験(社会学 No.55)	⇒
社会調査に関する記述として、妥当なのはどれか。	⇒
第1回公開模試(特別区I類) 専門択一試験(財政学 No.32)	⇒
公債負担論に関する以下のA～Dの記述のうち、妥当なもののみをすべて挙げているのはどれか。	⇒
第2回公開模試(国税専門官) 専門択一試験(憲法 No.18)	⇒
表現の自由に関するA～エの記述のうち、判例に照らし、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。	⇒
第2回公開模試(財務専門官) 専門択一試験(商法 No.34)	⇒
株主総会に関するA～オの記述のうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。ただし、争いのあるものは判例の見解による。	⇒
第3回公開模試(裁判所一般職) 専門択一試験(刑法 No.23)	⇒
正当防衛に関する次のA～エの記述の正誤の組合せとして最も妥当なのはどれか(争いのあるときは、判例の見解による。)	⇒
第4回公開模試(国家一般職) 専門択一試験(政治学 No.2)	⇒
利益団体に関する記述として、妥当なのはどれか。	⇒
第4回公開模試(国家一般職) 専門択一試験(憲法 No.12)	⇒
法の下での平等に関するA～オの記述のうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。ただし、争いのあるものは判例の見解による。	⇒
第4回公開模試(国家一般職) 専門択一試験(行政法 No.18)	⇒
取消訴訟における訴訟要件に関するA～オの記述のうち、判例に照らし、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。	⇒

本試験
特別区I類 専門択一試験(民法 No.13)
民法に規定する共有に関する記述として、判例、通説に照らし、妥当なのはどれか。
特別区I類 専門択一試験(社会学 No.55)
社会調査に関する記述として、妥当なのはどれか。
特別区I類 専門択一試験(財政学 No.32)
公債の負担に関するA～Dの記述のうち、妥当なものを選んだ組合せはどれか。
国税専門官 専門択一試験(憲法 No.18)
表現の自由に関するA～オの記述のうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。
財務専門官 専門択一試験(商法 No.34)
株主総会に関するA～オの記述のうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。
裁判所一般職 専門択一試験(刑法 No.22)
正当防衛に関する次のA～ウの記述の正誤の組合せとして最も妥当なのはどれか(争いのあるときは、判例の見解による。)
国家一般職 専門択一試験(政治学 No.4)
利益団体に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。
国家一般職 専門択一試験(憲法 No.11)
法の下での平等に関するA～エの記述のうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。
国家一般職 専門択一試験(行政法 No.18)
取消訴訟の訴訟要件に関するA～オの記述のうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。ただし、争いのあるものは判例の見解による。

➡模擬試験は学習効率の点からも利用価値があります。毎年、3カ月程度の短期間の学習でも合格を勝ち取る方をお見かけしますが、彼らに共通しているのは**模試の復習だけはきっちりこなしている**ことです。また、優先順位が低く、かつ、学習時間を設けられないような科目は、最低限のインプットとして、模試で出た論点だけでも確認すれば、得点の可能性を広げられるかもしれません。模試を活用して学習効率を高めていきましょう。

合格者の声（2021年 東京都I類B合格）

私は公開模試を一つの目標として勉強を進めていました。本番で問題を解くペース配分を決め、それが実際に間に合うかどうかということを模試で試しました。模試は本番の試験ではありませんが、本番であるかのように緊張感を持つことで、本番に近い精神状態でも力を発揮できるように練習する良い機会だと思います。また模試はその年で出題可能性が高い論点が厳選されているので、模試で出題された問題は本番でも絶対に解けるように完璧にしました。

4. 模擬試験の受験登録について

➡TAC の各種本科生の方は※原則として、第 1 回～第 5 回公開模試は無料で受験できます。ただし、公開模試の登録締め切り日までに受験登録をする必要がありますのでご注意ください。ちなみに 12/16（金）より登録開始となります。なお、各公開模試にはそれぞれ定員（先着順）を設けています。希望の日時・会場で受験するためにも、なるべく早めの手続きをお勧めします。登録の流れや締切日などの詳細については、TAC WEB SCHOOL において「公開模試 実施要項(PDF)」がありますので、ご一読の上、必ず手続きをしてください。

※速修教養本科生を受講の方は第 5 回公開模試の市役所（教養型）の無料受験権利があります。

※速修法律本科生を受講の方は第 1 回公開模試と第 5 回公開模試の無料受験権利があります。



ここでは、各公開模試の概要と注意点について簡単にご案内します。（詳細は実施要項で確認！）

第 1 回公開模試	東京都 I B 行政（一般方式）・東京都 I B 行政（新方式）・特別区 I 類 事務
第 2 回公開模試	国税専門官 A・財務専門官・労働基準監督官 A
第 3 回公開模試	裁判所一般職（大卒）
第 4 回公開模試	国家一般職（大卒）行政
第 5 回公開模試	地方上級試験 全国型・関東型・中部北陸型・市役所（教養型）・札幌市・横浜市・川崎市・神戸市（総合事務）

➡各回の中で1つの試験種を登録する必要があります（※1 受験なしも選択可）。同一の回で複数の登録はできません（例：第 2 回公開模試：国税 A or 財務 or 労基 A）。試験種未選択の場合は自動的に※2 試験種が割り振られ、自宅受験での登録となります。

※1 「受験なし」を選択した場合、欠席者請求（後日教材のお渡し）はできませんのでご注意ください。受験するつもりはないものの、教材（問題・解説冊子）が欲しい場合は「自宅受験」で登録してください。

※2 第 1 回：特別区 I 類事務、第 2 回：国税専門官 A、第 3 回：裁判所一般職、第 4 回：国家一般職（大卒）行政、第 5 回：地方上級（全国型）

➡各回の受験会場（自宅受験/会場受験）の選択が必要です。また、会場受験の場合は実施日及び受験地区を選択しますが※3 定員があるため、第 2 希望まで選択が可能です。

※3 第 2 希望まで定員に達した場合もしくは未記入の場合は自動的に自宅受験での登録となります。

模試ではどの試験種を選択するか悩むこともあると思います。本試験で受験予定がない場合でも、本命の試験になるべく活用できるものを選んでいきましょう。以下は試験種を選択する必要がある模試ですが、特徴を示したので選択の参考にしてください。

【第 1 回公開模試】

東京都 I B 行政（一般方式）

⇒教養が 40 問必答、論文及び専門記述（3 題）が課されますので、一般的な教養型の市役所や専門記述が課される国家専門職や裁判所を考えている場合、その一部に利用価値があると思います。

東京都 I B 行政（新方式）

⇒教養試験のみですが 40 問中 35 問選択で、大部分（30 問）が一般知能分野に偏っています。そのため、教養型市役所のうち、Logical タイプの試験などを考えている場合に利用価値があるかもしれません。

特別区 I 類 事務

⇒一般的な大卒試験で実施される教養・専門択一・論文で構成されているため、地方上級試験を目指す方は利用価値があると思います。

【第2回公開模試】（教養試験は共通）

国税専門官A・財務専門官・労働基準監督官A

⇒専門択一の必須解答分野を含めれば、地方上級試験で出題される科目構成で受験しやすいのは財務専門官です。ただし、科目選択制になっているため注意が必要です。労働基準監督官Aは必須解答分野が特殊ですが、選択解答分野は問題選択制になっているため、地方上級試験の科目構成に近づけることは一応可能です。国税専門官Aは会計学と商法を除けば地方上級試験の出題科目と大部分が重なりますが、科目選択制であることに注意してください。国家一般職を本命にしている場合は国税専門官Aまたは財務専門官を選択するとよいでしょう。

【第5回公開模試】

地方上級試験(全国型・関東型・中部北陸型・市役所(教養型)・札幌市・横浜市・川崎市・神戸市(総合事務))

以下の表を参照してください。

第5回公開模試 地方上級（都府県／政令市） 自治体別対応試験種一覧

※下表は、令和4年度の受験案内及び試験情報を元に作成しています。

※推奨受験試験種は、本試験の出題内容・形式などと必ずしも一致するものではありません。

※第5回公開模試の問題は、全部または一部で共通問題を使用しています。

都府県					都府県				
自治体名		区分	推奨受験試験種		自治体名		区分	推奨受験試験種	
青森県	行政	—	全国型	愛媛県	行政事務A	—	全国型		
岩手県	一般行政A	—	関東型	高知県	行政	—	全国型		
宮城県	行政	—	全国型	福岡県	行政	—	全国型		
秋田県	行政A	—	全国型	佐賀県	行政	—	全国型		
山形県	行政	—	全国型	長崎県	行政A	—	全国型		
福島県	行政事務	—	全国型	熊本県	行政	—	全国型		
茨城県	事務(知事部局等)	—	関東型	大分県	行政	—	全国型		
栃木県	行政	—	関東型	宮崎県	一般行政	—	全国型		
群馬県	行政事務	—	関東型	鹿児島県	行政	必須解答型	全国型		
埼玉県	一般行政	—	関東型	沖縄県	行政I	—	全国型		
千葉県	一般行政A	—	関東型	政令指定都市・特別区					
東京都	I類B(行政)	一般方式 新方式	第1回公開模試 第1回公開模試	札幌市	一般事務	行政コース	札幌市		
神奈川県	行政	—	関東型	仙台市	事務	—	関東型		
新潟県	一般行政	—	関東型	さいたま市	行政事務A	—	関東型		
富山県	総合行政	—	中部・北陸型	千葉市	事務	行政A	関東型		
石川県	行政	—	中部・北陸型	特別区	I類事務	—	第1回公開模試		
福井県	行政	—	中部・北陸型	横浜市	事務	—	横浜市		
山梨県	行政I	—	関東型	川崎市	行政事務	—	川崎市		
長野県	行政A	—	関東型	相模原市	行政	—	市役所(教養型)		
岐阜県	行政I	—	中部・北陸型	新潟市	一般行政A	—	全国型		
静岡県	行政I	—	関東型	静岡市	事務A	—	全国型		
愛知県	行政I	—	全国型	浜松市	事務B	—	全国型		
三重県	行政I	—	中部・北陸型	浜松市	行政A	—	全国型		
滋賀県	行政	専門試験型	関東型	名古屋市	事務	行政A	全国型		
京都府	行政IA	総合政策	全国型	名古屋市	事務	行政B	名古屋市(行政B)		
兵庫県	一般事務職	—	関東型	京都市	一般事務職	行政(一般方式)	全国型		
奈良県	行政A	—	関東型	堺市	事務	—	全国型		
和歌山県	一般行政職(通常枠)	総合A	全国型	神戸市	総合事務	一般枠	神戸市(総合事務)		
鳥取県	事務	一般コース	全国型	岡山市	事務一般枠(A)	—	全国型		
島根県	行政A	—	全国型	広島市	行政事務	行政	全国型		
岡山県	行政	—	全国型	北九州市	一般事務員	行政IA 行政IB	全国型 市役所(教養型)		
広島県	一般事務A	行政	全国型	福岡市	行政事務	行政(一般)	全国型		
山口県	行政	—	全国型	熊本市	事務職	—	全国型		
徳島県	行政事務	—	全国型						
香川県	一般行政事務A	—	全国型						

※上記に掲載されていない自治体は、出題内容が大きく異なるため、公開模試では対応しておりません。

※名古屋市は試験日程及び試験制度の変更がありましたので、名古屋市を考えている方は第5回模試では中部北陸型での受験を推奨します（関東型の受験でも可）。

➡模擬試験（登録試験種）の選択に関して悩みのある方は、遠慮なく担任講師などにご相談ください。

5. 最後に

直前期に行うことは人によって異なりますが、膨大な作業をすべて進め、仕上げていくためには、一つ重要な要素が必要になってきます。

それは、**心身ともに健康であること**です。私たちは心身のバランスに影響を受けながら日々を過ごしています。健全な肉体に健全な精神が宿る…という言葉があるように、心と体は互いに影響しあう関係にあります。受験は体力も必要なものです。体が弱っていると、気持ちだけでは空回りして乗り越えられないこともあります。逆に、体力があってもモチベーションの上がらない状況では当然うまく乗り越えていくことはできません。

健康な体は適度な運動や食事・睡眠などの**生活習慣**によって支えられています。当然ですが適度な休息も学習効率を維持するためには不可欠です。直前期は意識的に**生活リズムを整え**、体調の管理に気を使っていきましょう。

一方で**健康な心**もちょっとした工夫でコントロールできると思います。単純ですが、**前向き**に考えることです。直前期の受験生にとってはこちらの方がより学習管理上重要なことかもしれません。誰にでも経験があると思いますが、人は時間に追われると、自然とネガティブになるものです。そうならないためには、意識的に自分の感情をコントロールすることが大切だといえるでしょう。ただし、無理やりだと逆効果になることもありますので、自然とポジティブになれるような習慣を持つとよいでしょう。もちろん、リラックスする時間や息抜きなども大切ですが、例えば、**感謝**することも習慣化できると思います。自分が将来のためにチャレンジできる現在の環境は、家族や友人など、周囲の理解や支えの上に成り立っているものです。そのことに対して素直に感謝することで、受けた恩義に報いる気持ちが芽生えてくるはずです。自分だけでなく、周囲のためにも「今日を頑張ろう」と思えることは、直前期を乗り切る大きな力になると思います。また、否定的な表現をなるべく使わないようにすることも、習慣化すると効果的だと一般的にはいわれています。まだまだ他にも工夫できることはたくさんあると思いますが、いずれにしても、基点となる**自分の視点を少し変えてみる**ことで、物事を前向きに捉えるきっかけができ、好循環を生み出すことにつながれるのだと思います。

今後忙しさが増し、不安が顔をだしてくることもあると思います。そのようなときは家族や友人、そして私たち TAC 講師・スタッフをフル活用してください。内定までの道のりはまだまだ続き、様々な試練も待ち受けていることでしょう。しかし、そこであきらめないことが何よりも大切です。我々も最後まで伴走していきますので、一緒に乗り越えて最終合格・内定を勝ち取っていきましょう。